

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
環境都市系事務室内
平成 19 年 8 月

第21号

会長挨拶

建設会会長

下岡 吉治

昭和三十三年卒



建設会会員の皆様におかれましては益々御清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

日頃は建設会に何かとご協力願ひ心より厚くお礼を申し上げます。御承知の通り建設会は全国で一萬一千名弱の同志が十六支部を組織し誠に心強い限りでございます。本年も百九十一名の皆さんが御卒業され、来る年二十年は三百十六名との事、私共の時代には到底想像し得かつた事。

今回、卒業記念祝賀会にお招き

業全体が疲弊し、結果的に大変な事となる。

今こそ、此の流れを変えることが重要だと考えます。総論的にはこれからの本番。学とは「根性」と「素直さ」、それで人生を通せであった「立命人頑張ろう」と又、国内の事とは申せ「近い将来必ず起るであろう南海・東南海地震」への大学と一体となった対応策や新しい提案、技術開発などに眼を向けることはより重要であり、現内閣のスローガン「美しい国創り」「美しい心」と「美しい国土」、良い方向への地殻変動であればと想えるが。戦後六十年、今こそ伝統的歴史観や価値観を取り戻して今の世代に受け継がれなければならぬ。…そんな事を想えば背筋が寒くなる。…処

だが優秀な先輩や同志・後輩の皆々に期待しよう。

現代はややもすると目先の争点ばかりに？。各、地方共々の格差、首都集中のみではゴメンだ、そんな想いはいかがか、どうぞ「此の地域に棲んで良かった」と言える創生であらねば、そんなインフラ整備に期待し、出来れば各地域にも地についた基幹産業ありきと願いたいものだ。

又、一方ではCO₂削減をどの様な見地から環境を主とした各地の世論の盛り上がりと実施に向けた方向性等々「安全・安心」出来る「我が郷」作り、それが現代の「前へ前へ」進めと互いに理解し納得出来る事ではと想うが。本会もボチボチ実際上の事ではあるが「事起し」の組織作りを

建ちあげて実を作つては如何か。例えば今年退職された優秀な先生や先輩、同志で長になつてもらつて…も一案では。

どうぞ各、年代如に智恵した者同志どんな未来になるかを考え「現在はどうあるべきか」と思考実行する時代に入った。

いわんや今こそ協力し合つて「都市系工学分野」の進展と学園の発展に寄与出来る、我々の専門分野「社会基盤の整備」をより一層進行する推進役を努め今後共建設会が胸を張つて会員皆様同志のご協力ご支援をお願い致しまして明るく強く生きられる各、皆さんをご期待申し上げご健康に留意されます事を祈念してご挨拶とします。

BKCからのご挨拶

環境都市学系 学系長
都市システム工学科

伊津野 和行 教授



会員の皆様におかれましては、建設会への日頃のご協力、特に学生へのご指導ご支援に、深く感謝申し上げます。

今年には教員体制に大きな変動がありました。三十年以上の長きにわたつて立命館大学で教育研究にあたつてこられた山田淳教授と小林紘士教授が退職され、名誉教授となりました。また、江頭進治教授、塚井誠人講師、伊藤隆郭講師も退職され、小川圭一講師が准教授に、岡本享久教授(環境システム工学科)、神

従来の助手に代わる新しい職種です。

さて、今年度はいよいよ新しい学科の学生達が就職活動を始めています。土木工学科から名前を変えた都市システム工学科、内容を新たにした環境システム工学科、そして新しく設置された建築都市デザイン学科の学生達が、そろつて四回生となりました。新しい学科の一期生として、彼らの今後の活躍が期待される所です。就職にあたりは、建設会会員の皆様にいろいろお世話になることと存じますが、ぜひ暖かい目で見守ってやっていただきますようお願いいたします。従来からの伝統的な科目の知識のみならず、新しい時代に相応しい知識をも併せ持つた学生だと、送り出す私どもは

自負しております。

入試に関しましても、十八歳人口の減少と全国的な理工系離れにも関わらず、環境都市学系三学科は多くの受験生を集め、優秀な学生に入学してもらつてとができました。安心、安全な社会の実現に向けて、人のための工学という理念が高校生や保護者にも理解された結果ではないかと考えています。

昨年度は、土木学会全国大会を立命館大学BKCキャンパスで開催し、三日間で延べ一万七千人の方に参加していただきました。多くの卒業生の方々にもキャンパスを訪れていただき、懐かしいお顔を拝見することができました。また何かの機会がございましたら、ぜひキャンパスに来ていただき、いろいろな

話を聞かせていただけましたら幸いです。

今年度は都市システム工学科が、五年に一度のJABEE(日本技術者教育認定機構)認定継続審査を受けることになっていきます。これは、優れた技術者を卒業させるのに十分な教育が行われているかを第三者機関が審査するもので、立命館大学では土木工学科と環境システム工学科の二学科がこの認定を受けています。認定にあたりは、教育内容のみならず、その教育成果として卒業生の活躍についても評価されることになっていきます。卒業生の活躍は学生の将来設計にも大きな影響を与えます。皆様のさらなる活躍を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

今年には教員体制に大きな変動がありました。三十年以上の長きにわたつて立命館大学で教育研究にあたつてこられた山田淳教授と小林紘士教授が退職され、名誉教授となりました。また、江頭進治教授、塚井誠人講師、伊藤隆郭講師も退職され、小川圭一講師が准教授に、岡本享久教授(環境システム工学科)、神

従来の助手に代わる新しい職種です。

さて、今年度はいよいよ新しい学科の学生達が就職活動を始めています。土木工学科から名前を変えた都市システム工学科、内容を新たにした環境システム工学科、そして新しく設置された建築都市デザイン学科の学生達が、そろつて四回生となりました。新しい学科の一期生として、彼らの今後の活躍が期待される所です。就職にあたりは、建設会会員の皆様にいろいろお世話になることと存じますが、ぜひ暖かい目で見守ってやっていただきますようお願いいたします。従来からの伝統的な科目の知識のみならず、新しい時代に相応しい知識をも併せ持つた学生だと、送り出す私どもは

自負しております。

入試に関しましても、十八歳人口の減少と全国的な理工系離れにも関わらず、環境都市学系三学科は多くの受験生を集め、優秀な学生に入学してもらつてとができました。安心、安全な社会の実現に向けて、人のための工学という理念が高校生や保護者にも理解された結果ではないかと考えています。

昨年度は、土木学会全国大会を立命館大学BKCキャンパスで開催し、三日間で延べ一万七千人の方に参加していただきました。多くの卒業生の方々にもキャンパスを訪れていただき、懐かしいお顔を拝見することができました。また何かの機会がございましたら、ぜひキャンパスに来ていただき、いろいろな

話を聞かせていただけましたら幸いです。

今年度は都市システム工学科が、五年に一度のJABEE(日本技術者教育認定機構)認定継続審査を受けることになっていきます。これは、優れた技術者を卒業させるのに十分な教育が行われているかを第三者機関が審査するもので、立命館大学では土木工学科と環境システム工学科の二学科がこの認定を受けています。認定にあたりは、教育内容のみならず、その教育成果として卒業生の活躍についても評価されることになっていきます。卒業生の活躍は学生の将来設計にも大きな影響を与えます。皆様のさらなる活躍を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

員 の 声

第40回 きぬがさ マスターズに参加して



愛知県衣笠会
櫻井 高義
昭和38年卒

に砂を詰めて、起振機で震度を一から七まで上げながら砂の変状(液状化)を観測した事が昨日のように思い出されます。

私が電電公社に就職が決まったとき、島山先生は土木屋が電電公社でどんな仕事をするのかなど怪訝な様子でした。

私は、東海電気通信局(愛知、静岡、三重、岐阜の四県を管轄)土木工事に配属されました。(数年後、島山教授は近畿電気通信局土木工事の顧問教授としてご貢献頂きました。)当時の電話事業は、加入電話申し込み積滞数が百六十万件あり、一般家庭電話の取り付けは二年も待たされる状況でした。なにせ電話は今の様に無線ではなく、全て有線ケーブルをつなげなければ通話できないため、電話局から各ビルや各家庭まで配線しなければならず、また、全国の電話局と電話局は全てケーブルでつながっていないければなりません。大河川の横断、山や谷越えなど支障物が沢山あり如何に乗り越えられるかは土木技術者の双肩に掛っていました。そして、世の中の国民所得倍増計画に沿う「積滞解消と自動で即時つながる電話の推進」を目標とした第三次五カ年計画がスタートした年でもあり、電話局の増設、通信ケーブルの地下化、緊急無線装置の設置など体制整備強化が図られる中、連日現地測量、地下管路の設計、施工立会等多忙を極め、四十三年には加

入電話は全国で一千万台を突破更に、東名を中心とする高速道路網の発達により電話の機能も多様化し、やがて、日本万博を期に電子交換機の登場、海底ケーブルの進化により、米国、ヨーロッパ等海外へのケーブル敷設が始まり、都市内の道路下に埋設される地下通信設備は、洞道と呼ばれる大断面の地下道が必要となり、シールド工法が多く採用されこれにも従事しました。その結果「すぐつく電話、すぐつながる電話」は五十三年度でその目標を達成し、新たにデータ通信、画像通信網利用が開かれ、ファイバーケーブルと高度情報通信システム(INS)による世界を結ぶ電気通信の夢が現実化し、電電公社も民営化されました。今日、規制緩和により新規参入した電話会社による携帯電話やインターネット等競争に凌ぎを削って多様なサービスを提供しているのもこう云った基盤の上に成り立っているものであり、私自身ほんの僅かでも一役を担うことが出来た事に満足を感じています。今は静かに地域社会の人達と楽しく過ごしている今日この頃です。

さて、大変遅れましたが、愛知県衣笠会では、有志によるゴルフ会が三つあります。その一つは、現役者中心の「シグマ会」で日、祝日に例会を行っています。最近では殆ど開催されていません。その二つは、「ぶ

らつと会」で三カ月程度の間隔で飲み会を行っている仲間が年二〜三回の例会をするもの。その三つは、「きぬがさマスターズ」です。現役を引退した者達を中心に毎月例会を行っています。

本会の(取決一)では平成十五年十月三十日の開催を第一回とし、立命館大学卒で暇な人達が健やかに愉快地集うゴルフ同好会で「きぬがさマスターズ」と言う。と定め、また、会長は卒業年次の最長者が努める。なお、会員の推挙により、当会の趣旨に賛同する人を賛助会員とすることができるとあり、会員の奥様が入会しています。現在、会員三十三名、賛助会員七名です。また、(取決二)では、月一回、例会を持ち低廉なウイークデーやゴルフ場を選び開催するのを基本とする。開催地を愛知、三重、岐阜の輪番制にする。と定められ、最近の開催場所は、愛知は名古屋広幡GC、三重は名四CC、岐阜は岐阜稲口GCに固定化されつつあり、輪番している。例会の出席者数は、少ない時で八名ほど、多い時で二十名を超えます。最近では三重県建設会からの参加も増え

建設会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。愛知県衣笠会では、「きぬがさマスターズ」と云って、現役を引退した有志の人達で毎月一回のゴルフ会を開催しています。今回は、この活動について報告させていただきますが、現役の皆さん「こののんき野郎」なんぞと言わないで下さい。

さて、その前に自己紹介をさせていただきます。私は、昭和三十八年土木工学科を卒業後、電電公社へ就職した者です。卒論は、島山教授の「地震時における砂質地盤」であったと思います。毎日、衣笠校舎で振動箱へ層状

らつと会」で三カ月程度の間隔で飲み会を行っている仲間が年二〜三回の例会をするもの。その三つは、「きぬがさマスターズ」です。現役を引退した者達を中心に毎月例会を行っています。

本会の(取決一)では平成十五年十月三十日の開催を第一回とし、立命館大学卒で暇な人達が健やかに愉快地集うゴルフ同好会で「きぬがさマスターズ」と言う。と定め、また、会長は卒業年次の最長者が努める。なお、会員の推挙により、当会の趣旨に賛同する人を賛助会員とすることができるとあり、会員の奥様が入会しています。現在、会員三十三名、賛助会員七名です。また、(取決二)では、月一回、例会を持ち低廉なウイークデーやゴルフ場を選び開催するのを基本とする。開催地を愛知、三重、岐阜の輪番制にする。と定められ、最近の開催場所は、愛知は名古屋広幡GC、三重は名四CC、岐阜は岐阜稲口GCに固定化されつつあり、輪番している。例会の出席者数は、少ない時で八名ほど、多い時で二十名を超えます。最近では三重県建設会からの参加も増え

ています。本部からも是非一度、ご参加いただければ幸いです。会員には、官公庁、建設業界、コンサルタント業界等々で大活躍された方々も多く、幅の広い情報交換の場として、また、同窓仲間としての親睦の場としても例会は極めて貴重な集いとなっており、和気あいあいの内に進行しています。私は第七回日から参加させて頂いて居りますが、本会は今年の六月例会で第四十回を迎えました。まだまだ一通過点にすぎませんが、どんどん記録を伸ばして行ってみたいものと思っております。月一回の例会で先輩、同輩、後輩の皆さんと親しくお会い出来るのが楽しみで待ち遠しいという雰囲気があり、また今月も無事に元気で参加できた喜びさえ感じます。末長く継続してもらいたいものと思っております。現在の会長は、三十一年卒、長老永田俊矣先輩です。当年七十五歳とか。まだまだ元気一杯です。私たちが会員一同も永田会長のパワーを頂いて後に続いて行きたいものだと思っております。



第40回きぬがさマスターズ

2007.6.13 快晴 IN 名古屋広幡GC

最後にりましたが、立命館大学建設会のご発展と皆様方のご多幸をお祈り申し上げます。



関東建設会会長
山田 正敏
昭和39年卒

陶芸にのめり込んで

陶芸を始めてこの四月で五年になる。そもそも陶芸に興味を持つに至ったきっかけは、我が女房殿にある。十五年程前から、デパートや美術館に於ける陶芸展示会や、春夏に催される、益子の陶器市にアッシーとして子供をさせられているうちに、自分も陶芸をしてみたい、これぐらいならやれるかも知れないと思うようになった。そこで定年後の趣味の一つとして、陶芸を採りいれるべく適当な陶芸教室を物色していたところ、たまた

ま我が住まいする団地の隣にある、船橋市の中央老人福祉センターに、百名もの部員がいる陶芸クラブが在るということを人に聞き、リタイアするのを待ちかね、六十一歳で入会を認められ今になる。

もともと子供の頃から物作りには興味があり得意としていたが、土いじりにこれほど夢中になりぬり込むとは、我ながら改めて新しい自分を発見した思いがした。独立し出て行った長男の部屋を我が工房とし、当初の一年は、土との格闘に、夜中の二時三時はしょっちゅうで、気が付けば夜が明けていたということも何度あった。女房殿には「家庭内別居やね」と嫌味を言われる始末である。

一年半後には電動ロクロを購入、その後、一昨春秋、人の勧めで船橋市の展覧会に作品を出展したところ、「奨励賞」をいただき、続いて昨春秋は「市長賞」をいただき、有頂天になり、益々陶芸にのめり込む毎日を楽しく過ごしている。

定年後の生活については、ゴルフ・釣り・囲碁・多くの友人達との飲み会・学生時代やってきた剣道と退屈する事など夢にも思っていなかったが、剣道は定年後、練習を再開した当日左足ふくらはぎ肉離れでダウン、他は結構金がかかり今の「年金生活者」の小遣いではしょっちゅうは出来ず、たいした金もかからず毎日、夢中になって楽

しめる陶芸に出会えて本当に良かったと思っている。創る楽しみ「三十八年間のサラリーマン生活は、ひよっとしたら仮の姿だったのかもしれないとまで思っている。

世界最高峰への道歩く



福岡県支部
山田 彰徳
昭和41年卒

山田淳先生がこの三月に定年退職されました。三十五年間にわたる立命館大学のみならず我が国の土木技術の発展に貢献して頂き、ありがとうございます。

私は、先生より五年早く定年退職しました。少なからぬ土木技術者がそうであり、そうであったように、私も三十二年間の結婚生活のうち約二十年間を単身赴任でした。

定年退職後、最初の単身赴任地福岡に居を定めました。「これで単身生活は終わったぞ」と喜びました。ところが、一昨年春、定年退職したばかりの家内が両親の世話で一年の約半分の期間、京都へ単身赴任？することに

私達夫婦は、このようなすれ違い生活を埋めるべく、残りの約半年の間、中国、東南アジア諸国、インド、パキスタン等を往復の航空券と着替えを入れたリュックを背にぶらつくことにしました。

平成十八年秋には、九月末に開催された福岡県建設会総会の余韻が頭に残る十月中旬にネパールに向けて出発しました。そして、世界最高峰エベレスト(八八五〇m)のピークを眺めるため、ヒマラヤのゴキョ・ピーク(五四八三m)、カラパタル・ピーク(五五四五m)及びチュクン・ラ(五三〇〇m)の三つの5km峰に登頂してきました。

全行程二十日間のうち十五日間は標高四三〇〇mを超える通称エベレスト街道でのトレッキングでした。高山病のため、ヘリコプターや馬で標高の低い下界へ運ばれるトレッカーの姿を毎日のように目にしました。

五千m峰への登山道は急勾配な上に空気も薄く、私は、歩き始めて数分もしないうちに息が上がり、脚ががらなくなりました。そんな私の姿を見て、家内は「タートルウォーク」と言ってからかいました。苦闘の末にたどり着いた頂上では、エベレストを始め、チョーオユウ、マカルー、プモリ等の氷雪に覆われた八千m峰の姿が、真っ青な空の中に浮かびあがっていました。その雄大な眺めに思わず

歓声が口から飛び出しました。

ヒマラヤのトレッキングは、白銀に輝く雄大なパノラマを楽しむだけでなく、トレッキングの行き帰りや、宿泊するロッジで出会う世界各地からやって来た老若男女と話ができることです。今回の旅でも、七千m峰に登頂したイギリス人のグループ(リーダーの奥さんは岐阜出身の日本人とのこと)、そのガイドでエベレストに2回登頂したという三十四歳のシェルパ、2人で登山を楽しんでいる六十三歳代のスペイン人夫妻、自ら大きなリュックを背負った元気溢れる六十二歳の韓国人男性、大学を卒業したばかりのアルゼンチンの若者、サラリーマンだと言っていたマレーシアの若者達など個人旅行そしてヒマラヤト

出会いがありました。このように旅行で出会った外国人に「私はシビルエンジニアです」と言うと、「グレイト！」という讃嘆の言葉が必ず返ってきます。

この原稿を書き終え、六月の下旬までに平成十九年度の福岡県建設会のお手伝いを済ませてから、今年二回目の海外旅行、世界第二の高峰K2を眺めに家内と二人でパキスタンへ二カ月の旅へ出発します。

関東建設会 平成十九年度総会開催

関東建設会幹事長
加藤 洋一郎
昭和42年卒

関東建設会は、平成十九年度総会を六月十九日に、東京大手町サンケイプラザにおいて開催しました。同窓生三十四名の参加があり、来賓として、本学から都市システム工学科の村橋教授、東京オフィスの北本所長にお越しいただき盛大にまた、和気あいあい開催できました。

しました。懇親会に移り、村橋教授のご挨拶に大学の学部が、平成二十年四月に生命科学部と薬学部が新設され、それを含めると、びわこ・くさつキャンパス、衣笠キャンパス、アジア太平洋大学の大学院を合わせると三十一学部の大きな学校になっているとの紹介がありました。

総会では、有賀秀樹会長が最後の議長として議事を進め、満場一致で承認されました。

喜ばしいニュースとして、下野均様(昭三十四卒)が今年春に、国家から「瑞宝小授章」を叙勲

今年度、役員改選で新会長に山田正敏様が就任しさらに新幹事に昭和五十七年、昭和六十七年卒の若い仲間四名が加わって頂きました。



総会後、山田新会長は、今後の抱負の中で、卒年次の若い仲間の参加と小旅行やゴルフなどのイベントを検討したいと挨拶があり、新役員紹介をして無事終了

され、園遊会で天皇陛下から直に「国のため社会のために尽くしてくれてありがとう」とのお言葉を賜ったとのお話がありました。立命館関東建設会として名譽なことで、おしめない拍手がありました。

最後に、元応援団長の有賀顧問の指揮のもと校歌斉唱で今年度の総会もお開きとなりました。

京都支部事務局にて



京都支部事務局長
内田 威男
昭和44年卒

会員の皆様には、日々英知を出しながら頑張っておられる事と存じます。私ごとながら学校を卒業してから三十八年を迎え、同期生の定年の噂を耳にするようになり、月日の経つ速さに驚いています。昨年一月に京都支部事務局長を引き受けることになったのも何かの巡りあわせかと思えます。与えられたことをひたすらこなすだけだと思いを奮闘している所です。会員の皆様に支えられていることをつくづく考えさせられる日々です。建設会幹事長の尼崎教授とも同期であり、京都支部の代

表として参加した三重支部で同期と会い楽しい時間を過ごしました。今年の秋には、京都支部の第十六回総会(十月二十七日)があり、また誰かに会えるかと楽しみます。年々若い人の参加が少なくどのようにすれば参加してもらえるのか、マンネリを打開して楽しかったといってもらえるのか今まで横目で見えてきたので当事者となると大変です。財政的にも苦しいですがなんとか踏ん張るしかないのが現実です。建設業会を取り巻く環境は、決して明るくはないのですがやはり難問は、低入札の問題ではないでしょうか。低入札で受注する事は、社員の給与低下を意味するものであり、技術力をダウンピングすることは、論外であると思われれます。公共工事で落札率が問題視されているが予定価格を官庁が正確に算定できているとするならば、適正な価格が予定価格となり、落札率にこだわった議論をされるのはおかしいと思われれます。技術力のある会社が生き残り、弱小企業も生き残れるシステムを構築することが必要ではないでしょうか。安く発注出来れば、国民の理解が得られるとの考え方はひびきを発生させる物で、これも官民が一体となって取り組んでいかなければならないと思えます。地震が発生すると災害が多発し、歩行者道、自転車道、高齢者の電動四輪車通路の整備な

どまだまだ基盤整備が必要だと考えられます。確かに三月末に予算消化の為に無駄な公共工事が発注されてきたのも事実だと思えます。四月に中国の温家宝首相の来日で立命館大学の名前を目にしました。立命館の活躍を耳にする機会が増えて、グレート立命を誇らしく思う今日この頃です。最後に立命館と建設会会員皆様の益々の発展をお祈りします。

第二十回北海道支部総会開催報告

北海道支部事務局長
城戸 寛
昭和55年卒

昨年十月二十一日(木)、第二十回北海道支部総会をKKRホテル札幌にて開催いたしましたので報告します。

一九八六(昭和六十一)年の設立から、支部会員の情報交換の場として継続して参りました年次総会も、今回が記念すべき第二十回目を迎えました。そこで、北海道支部としては、はじめに基調講演をプログラムに盛り込むことを企画し、建設会事務局にご相談したところ、本学



記念写真：前列中央が深川先生、右隣が成田前支部長、左隣が堀口現支部長、二列目左から二人目が筆者です。

から理工学部環境都市系都市システム工学科教授で、防災システム研究センターの副センター長も兼務されておられる深川良一先生をご紹介いただき、大変お忙しい中、支部総会のために札幌までお越しくださいました。ここに紙面を借りて、あらためて深川先生と事務局に御礼を申し上げます。

深川先生からは、「立命館大学における最近の防災研究の取り組み」と題して、文部科学省や国土交通省からの受託事業等による研究成果とともに、BKCにおける本学理工学部の近況などをご報告いただきました。具体的には、文部科学省21世紀COEプログラムによる「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」、同省私立大学学術研究高度化推進事業の「防災と安全のための複合大規模センサシステムおよびロバストネッ

められているものでした。日頃から本学の活躍について各種報道等を通じて見聞きしておりましたが、その一端を垣間見ることができましたし、私も阪神淡路大震災以来、(社)日本技術士会北海道支部における防災委員会での研究活動を継続していることもあり、大変興味深く拝聴させていただきました。当日の参加者は、会員数六十四名(二〇〇六年十月現在)のうち、十三名と少人数ではありますが、幅広い年代の参加が得られ、大変有意義な記念総会となったと考えておりますし、今後は、この総会の開催報告を広く道内在住の会員向けに行う等、支部活動の活性化に繋げていきたいと考えております。前回、この会報に寄稿させていただいたのが二〇〇一(平成十三年)年の第十五号でした。その折には、二〇〇二(平成十四)

年のワールドカップサッカー大会の会場の一つになった札幌ドームが世界中の注目を集めている話題を提供させていただきましたが、今度は北海道洞爺湖サミットの開催が決まり、またまた来年は世界中から大きな注目を集めることになりました。百聞は一見にしかず。是非、日本ハムの本拠地でもある札幌ドーム、そして、国立公園としても指定されている洞爺湖に足を運んでみてはいかがでしょうか。夕張市の財政破綻等、なかなか元気が出ない北海道をまずは観光面から応援していただければ幸いです。建設会会員の皆様の来道をお待ちしております。

建設会広島県支部第四十回記念総会において



広島県支部幹事長
佐藤 泰啓
昭和56年卒

建設会会員の皆様にかかれましては、益々清栄のこととお慶び申し上げます。

(一)幹事長就任のごあいさつ
私は、この度建設会広島県支部の幹事長を拝命いたしました

昭和五十六年卒の佐藤と申しま

す。今まで、長きに渡り幹事長を務められました平野訓相先輩より何度となく後任を要請され、ついに幹事長という大役を引き受けることとなつてしまいました。また、幹事長交代の時期も、今回の建設会広島支部の四十回記念総会という事もあり、改めてその重大さをひしひしと感じている次第です。

何分にも、はじめての経験でありますので、渡橋支部長 藤岡副支部長 平野前幹事長をはじめとする支部役員の皆様、並びに建設会の皆様のご協力を得ながら、微力ではありますが、頑張らせていただきたいと思ひます。

よろしく、ご指導頂きます様お願い申し上げます。

(2) 建設会広島支部第四十回記念総会について

平成十九年五月二十六日(土) 広島県支部第四十回記念総会が、リーガロイヤルホテル広島にて、十七:〇〇〜二一:〇〇の約四時間にわたり盛大に執り行われ、約八十名のご参加をいただきました。

をいただきました。

また、今回の総会は四十周年の記念総会ということで、立命館大学文学部卒でマンドリン演奏家として、国内外で幅広く活躍されている伊丹典子様をお招きし校歌をはじめ、多くの演奏をしていただきました。(個人的には、「いちご白書をもう一度」の演奏が忘れられません)

今回は、広島県内でも遠方より多数参加いただき、なかなか会えない同窓と、久しぶりの会話に花の咲いた総会であったような気がします。建設会も、時代の流れに沿いながら設立当初の志とは変化しながらも継続していく必要があると思ひます。

最後となりましたが、立命館大学建設会広島支部へのさらなるご支援をよろしくお願いいたします。

卒業後の今日



立命館 丸山 正
平成9年卒

私は一回生を衣笠キャンパス

で、その後三年間は琵琶湖草津

キャンパスでの楽しい学生生活を過ごさせていただき、平成九年に卒業しました。最初は衣笠での一年間が少し物足りない気がし、できれば衣笠で二年間、草津で二年間の学生生活と

思っておりましたが、琵琶湖草津キャンパスならではの広い施設で、同じ学生仲間と勉学に励めたのは、何よりも楽しく、充実した時間でした。今でもキャンパスに入る前の、自転車での登りによる、キツイ坂を思い出します。時々、学生時代の友人と連絡をとり合うのですが、母校の近況を聞くたびに、在学時と比べると今はもう、ガラッと変わってるんだなと実感します。

時間があれば、琵琶湖草津キャンパスに行ってみたいと思ひています。

私も土木工学科を卒業して十年になりますが、建設会の皆様方は官公庁、コンサルタント、ゼネコン等でご活躍されていることと思ひます。近年、公共工事の品質確保の促進に関する法律に関連する取り組みで、総合評価落札方式や契約後VE方式等の採用による入札制度、更に一般競争入札の対象枠の拡大等、入札制度が目まぐるしく変わってきています。一方で労務単価は年々下がっています。また、都道府県や市町村等でも、予算の都合等で予定価格を一段と低く設定される例が多くなつてい

る現在、受注業者(元請)、さら

にそれを支えていく協力業者も年々厳しい状況に追い込まれており、競争の激化で低入札業者が増えている傾向にあります。発注者が満足する、品質の高い構造物を建設するためには、どうしてもコストが必要で、時間や労力も必要です。しかし現状では、それを安くしなければ受注できない現実があり、一つの構造物を完成させるために、ただ単に安ければよいのか?それとも時間やお金を要しても品質・技術に優れた構造物を目標にするべきなのか?このようなことを建設会の方々と議論してみたいと思うのが、私の正直な心境です。また、近年特に国土交通省では入札価格と技術提案等を総合的に評価する入札方式に移行し、更に技術提案の評価基準を高めていく傾向にあります。これは技術力のある会社が生き残り、技術力のない会社は除外されていくことを意味します。

現在、建設会の方々には発注者、請負業者、コンサルタント等それぞれの立場から建設業に携わっておられることと思ひます。上記の現状をふまえ、今後のあるべき姿について、皆様方と共に考えていきたいと思ひています。

この三月、三十五年間の勤務を終えて定年退職した。この間、建設系の学生の講義や卒業研究を担当してきたので、五千名を越える学生、五百名近い卒業研究生と接してきたことになる。退職後、五月十二日に祝賀会をやつていただいた。祝賀会には、土曜日の夕刻にもかかわらず、建設会会長はじめ支部長、研究室を中心とした卒業生、先生方、行政関係者、民間企業の方など、多くの方にご参加いただき、懇談のひとつときを過ごしていただいた。

社会資産



名誉教授・客員教授
びわこ環境研究センター長
山田 淳

影響を与えてきた可能性がある。また、技術動向の交換や就職活動への協力などにもこのネットワークは活かされており、資産の再生産が行われているとも考えられる。

第二は、学生・院生を含めた産官学民の共同研究会や調査研究である。受託研究などで政策課題を取り上げた時には、当該学生・院生だけでなく、行政機関や民間企業の人たちにも入つてもらつて、研究会として運営した。学生・院生は、これを通じて社会の第一線の人たちの考えを学び、逆に学外人たちは大学の研究として目指しているものを知ることができる。外国での調査では、相手国の政府や国際機関、日本の政府や民間機関にも協力をいただき、共同性を強めた。

第三は、研究結果の報告、発表、論文作成を通じて学問としての成果を出してきたことである。水需要の分析と予測の分野では、三十数年にわたり全国研究発表会で欠かさず発表してきた。汚濁物の流出と面源汚染対策の分野では、実態調査、モデル、対策などで論文を作成し、水環境学会、土木学会などで発表してきた。また、国際会議でも積極的に発表してきた。国際技術協力の分野では、ODA水供給プロジェクトの評価を課題に、国際開発学会や他学会の英語部門で発表をしてきた。もちろん、共著者には、共同研究した人達



衣笠キャンパスでの記念講演 - 2007.5.12

も含まれている。大学院生には、調査や実験、分析などのつらい作業、研究結果を学会で発表する晴れの舞台、審査付論文にパスするという果実の収穫を体験してもらい、社会の出発点での自信を持てるようはかつてきた。第四は、研究の成果に基づいた社会貢献、とりわけ、解説的な原稿、講演、委員会・審議会、マスコミなどでの発言などに力を入れてきた。自分たちで調査研究したデータに基づく発言には、それなりの具体性があるの、ささやかではあっても社会貢献しているのではないかと思っている。

いずれにしても、形成された「社会資産」は、再生産しない限り次第にその価値を失っていく。しかし、うまく活用、運用すれば、なお、新しい価値を生む可能性もある。建設会を同窓の懐古的な組織にとどまらず、蓄積された「社会資産」を活かす場となることを祈っている。

「イノベーション立国」に向けた政策のロードマップの項ではイノベーションに向けた社会環境の整備を進めるとし、公的部門における調達の際の「総合評価方式」に新技術、製品、サービスを活用すると述べている。公共事業の発注で総合評価方式が次第に増加しているが、これはイノベーションに向けた社会環境の整備の先取りであるといえる。総合評価方式に対応するには、新技術、新工法による生産性向上、コスト競争力を身につけることである。また発注案件に対して新しい価値(技術、デザイン、情報など)を提案する力を身につけることである。ではどうすればよいで

あろうか。新しいものを発明、発見することは容易ではない。しかし、既存の技術、知見を組み合わせ、あるいは改良し新しい価値を作り出すことはさほど困難ではない。これが「イノベーション」という言葉は、発明発見のみならず既存の技術を組み合わせ、改良して新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起すことをいう。ある目的(製品開発、プロジェクトへの提案)のため各種の技術、知見を持つた人を組み合わせることで新しい価値を作るのである。三人寄れば文殊の知恵のたとえのとおり一人で努力するよりよい結果を生む場合が多い。この「組み合わせ」という言葉は「連携」とおきかえることができる。「産学官連携」という言葉を耳にする機会が多い。異なる機関で、異なる領域でそれぞれ優れた知見、技術を持つ人が結集して力を合わせるによりイノベーションが可能となる。建設工学の分野においても産学官連携によるイノベーションを。

建設業の仕事の中でも公共事業は今、発注量の減少と落札率の低下に喘いでいる。これらを克服し、会社の存続繁栄を図るには、固定費の削減、新分野の開拓、進出、業務の効率改善、生産性の向上、新商品、新技術による競争力の獲得あるいは高付加価値による売り上げ単価の向上など各種の対策が考えられる。最も効果的に短時間のうちに成果が期待できる対策は、ライセンス導入、技術提携、企業買収などにより優れた技術を導入し新分野の開拓あるいは自社の技術のレベルアップを図ることであろう。

幸いなことに連携研究開発には、国交省、経産省、農水省、各自治体、科学技術振興機構などによる数多くの財政的支援策がある。それらの支援策では関連する技術に関する特許取得を要求される。もし特許が無ければ、補助金を与えて支援した成果が他者にも容易に利用されるので、製品化されても開発に努力した人たちの利益につながらない。従来、公共事業に関連する技術は特許になじまないとされてきたが、これは「談合体質」から生まれた考えであって、今後の建設業界では特許は必須の要件となってくる。ビジネスの方法についてもイノベーションが望まれる。



名誉教授・チェアプロフェッサー
JSTイノベーション
サテライト滋賀館長
小林 紘士

イノベーションの勧め

政府は今後二十年間の社会システムと技術革新の戦略に関する政策のロードマップを作り上げ、平成十九年六月一日の、『長期戦略指針「イノベーション25」について』を閣議決定した。この中で建設工学分野についていえば、安全安心な社会を作るため、さまざまな災害に強い社会基盤を構築することが重要事項として示されている。また、「イノベーション立国」に向けた政策のロードマップの項ではイノベーションに向けた社会環境の整備を進めるとし、公的部門における調達の際の「総合評価方式」に新技術、製品、サービスを活用すると述べている。

建設業の仕事を今、発注量の減少と落札率の低下に喘いでいる。これらを克服し、会社の存続繁栄を図るには、固定費の削減、新分野の開拓、進出、業務の効率改善、生産性の向上、新商品、新技術による競争力の獲得あるいは高付加価値による売り上げ単価の向上など各種の対策が考えられる。最も効果的に短時間のうちに成果が期待できる対策は、ライセンス導入、技術提携、企業買収などにより優れた技術を導入し新分野の開拓あるいは自社の技術のレベルアップを図ることであろう。

事務局より

お知らせ

■会員登録データ

立命館大学建設会では、会員名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付いたしました年会報に同封されている「会員登録データ」文書上段に記載されているデータをご確認いただき、修正や変更がございましたら8月末日までに建設会事務局までご連絡下さい。

また、2006年12月発行の「平成18年度版会員名簿」は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきました。名簿ご希望の方は、同封の振込用紙にて2年分の会費(6,000円)を納入下さい。入金確認が出来次第名簿を送付させていただきます。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。

2007年度会費のご納入をお願い致します(年会費:3,000円)。

また、会費ご納入につきましては「郵便局の自動振替システム」をご利用いただくこともできます。

お申込みの際には、取扱郵便局「草津若草郵便局(Tel: 077-567-4050 FAX: 077-567-4120)」へ申込書の送付依頼書(様式適宜・住所氏名を記載)をFAXにてお送り下さい。毎年10月1日に会員様の郵便貯金口座から年会費が自動引き落としされます(8月末以降のお申込みは、翌年10月1日からとなります)。

詳細につきましては、郵便局から送られてくる申込書をご参照下さい。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部環境都市系事務室内(担当:山元)
TEL: 077-561-2666 FAX: 077-561-2667

http://www.ritsumeai.ac.jp/se/rv/ob/index-j.html
E-mail: yyv97024@se.ritsumeai.ac.jp
会費払込郵便振替口座: 02 京都 01080-1-884